

もう透析にはいきません！

～認知症患者の透析拒否への関わりを通して～

医療法人社団スマイル クレア焼山クリニック1)

医療法人社団スマイル 博愛クリニック2)

○木曾早苗1)、永谷美子1)、河野純子1)、吉田純子1)、原田美香1)
好川明美1)、藤井恵子1)、2)、宮園和也1)、鎌田正彦1)、桐林慶1)

【はじめに】

超高齢社会を迎え、透析医療においても認知症患者への対応は避けては通れない課題である。今回、当院外来透析中の認知症患者の透析拒否に遭遇した。それに対する我々医療スタッフ、家族、地域包括センターの支援により透析を再開することができた一例を報告する。

【症例】

年齢： 73歳

性別： 女性（Sさん）

病名： 慢性腎不全
アルツハイマー型認知症

2型糖尿病

原疾患： 糖尿病性腎症

透析歴： 3年7ヶ月

透析状況： 週3回（火・木・土）4時間 I-HDF

家族構成： 夫と次男の3人暮らし

人柄： 穏やか 明るい

【透析導入までの経過】

- H21年 腎機能低下にて入院し、食事拒否
妄想・幻覚出現した為、精神科への
転院加療となる。
最終診断は「せん妄」
- H23年7月 左上腕シャント設置
- H23年11月 アドヒアランス不良にて受診、内服
の自己中止などあり腎不全増悪
- H23年12月14日 透析導入
- H23年12月19日 当院外来透析フォロー開始

【透析再開までの経緯 1】

日付	患者の言動 行動	家庭の様子	客観的データ/アセスメント	対応
透析拒否 H27年5月5日(火) (前回透析から3日目)	「もう透析には行きません。自分の人生なので、自分で決める。」 原因を聞くと「何もありません。」	夫と次男で何度説得しても、今後を含め透析したくないと。家族も心あたりなし。	突然の透析拒否。家庭内で何があったのか？それともクリニックへの不満か？	家族から電話あり。透析を行なわないリスクを説明する。
H27年5月6日(水) (" 4日目)	「もう透析には行きません。もう私の事は切り離してください。体調もいいです。」	夫と次男で何度説得しても透析したくないと電話の口調は淡々としている。	頑固に拒絶するが、特に何が原因というわけではなく、妄想か？	電話連絡する。気持ちが切り替わるまで待ち、家族に諦めず来院への説得をお願いする。
H27年5月7日(木) (" 5日目)	Sさん電話にでない。	次男が何度説得しても伝わらないため困惑している。	心境に変化ない様子。	電話連絡する。
H27年5月8日(金) (" 6日目)	「息子に大切な物を捨てられた。生きていても意味がない。主人は私が死んだ後、通帳名義をどうしようかと言っている。」	本人不満をもらすが原因と気づかず、口論になることが、時々ある。	自分の存在意義をなくしてしまった様子。	ミーティングし、電話では説得困難のため自宅訪問する。説得に応じる気配なし。本人の話を傾聴し、気が変われば来院するよう話す。
H27年5月9日(土) (" 7日目)	「何に苛立っているか自分でも分からない。でもこれも私の人生。」	夫と次男の説得に対しても一度、言ったことをまげない。反抗的な言動が多い。食事摂取量やや低下気味。	不機嫌だが透析しないと死が待っている事を理解している様子。 顔面、下肢に浮腫(+) 自尿(+)	体調を見る目的あり自宅訪問する。説得するも話題をそらす。透析しないと生命に関わると必要性説明するが本人の気持ち変わらず。

【透析再開までの経緯 2】

日付	患者の言動 行動	家庭の様子	客観的データ/アセスメント	対応
来院 H27年5月11日(月) (" 9日目)	「行きます。」と来院。「息子に物を捨てられた。主人は私が死んだ後の預金名義はどうしようかと。息子と主人が自分を置いて遊びに行った。」	家族とのトラブルが原因と話をする。家族にも言い分はあるようだが、本人の不満が表出できてきた。説得に対し否定的な言動認めない。	電話、自宅訪問を続けてきたことで気持ちの変化に繋がったのではないかと考える。 透析前BP217/96mmhg 下肢浮腫著明に見られる。	自宅訪問する。 3h透析施行。
透析拒否 H27年5月12日(火) (前回透析から1日目)	Sさん電話にでない。	刺激しないようにそっとしている。	前日の3h透析では不十分であり、状態急変の可能性あり。	電話する。家族に来院への説得をお願いする。
H27年5月13日(水) (" 2日目)	Sさん電話にでない。	家族の説得に、逆に暴言が返ってくる。	家族も説得の度に暴言が返ってくることで困惑し、精神的負担が大きくなっている。	電話する。諦めずに時間をおきながら、説得を行なっていくよう伝える。
H27年5月14日(木) (" 3日目)	「透析には行かない。」	繰り返し説得している。呼吸が苦しそうとの情報あり。	不穏状態。溢水状態の可能性あり。	電話するも本人電話に代わる事も拒否。
H27年5月15日(金) (" 4日目)	「息が苦しい。」	透析拒否が続くこと、不穏症状出現についての相談で次男来院。自宅で呼吸苦と倦怠感が出現している。	不穏状態ではいくら説得しても伝わらない。内服開始し精神面の安定を図る必要性がある。	不穏に対してデパス(0.5)2錠/2×で内服開始となる。
来院 H27年5月16日(土) (" 5日目)	「行ってみようかしら。」 「足が痛い。」	自力での歩行困難があり、介助が必要になってきている。自宅内はつたい歩きで移動している。	不穏症状見られず、機嫌良好。 透析前 BP174/84mmhg 呼吸苦(+)	自宅訪問したスタッフの説得に素直に応じ、付き添いで来院する。

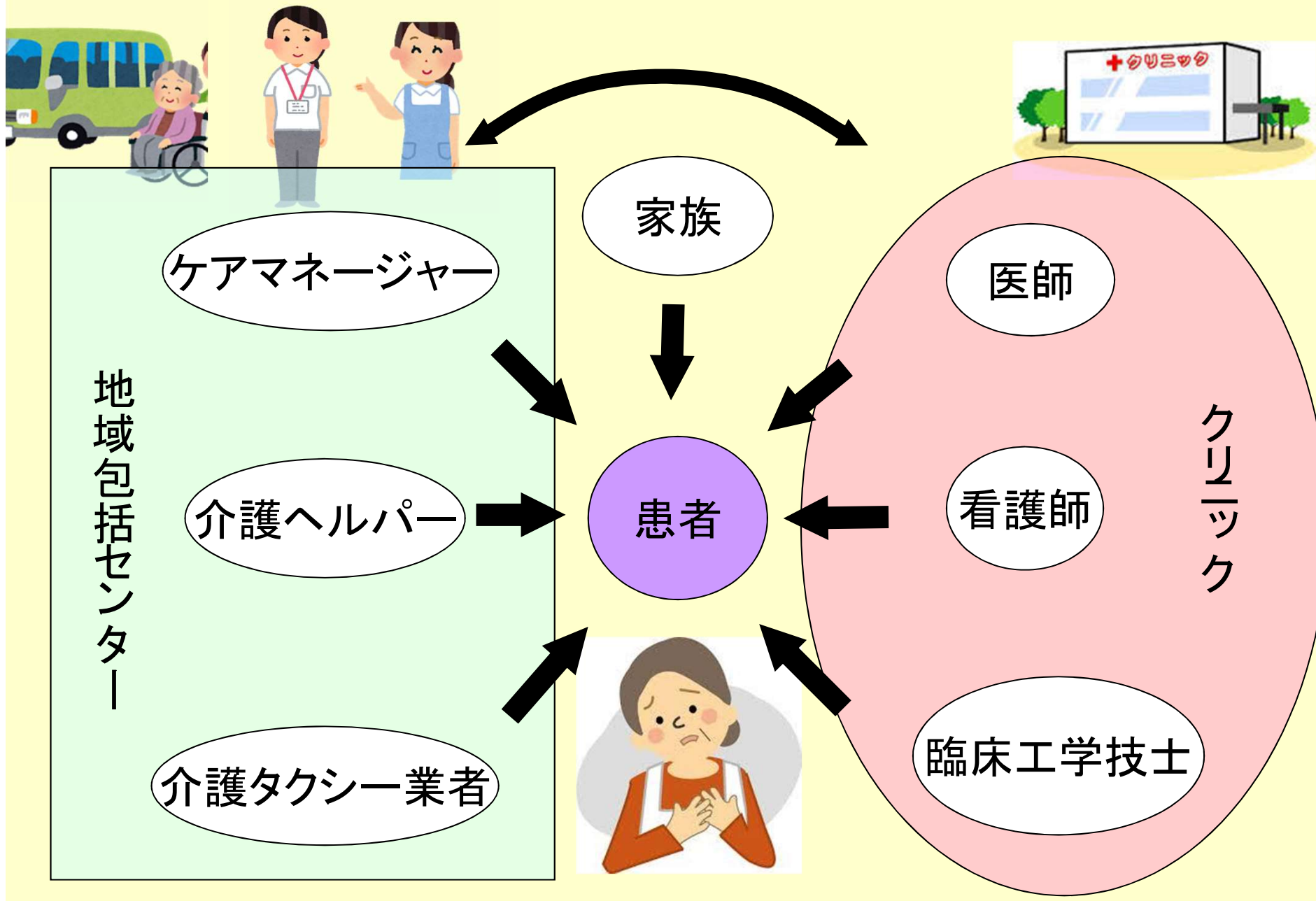
【透析再開までの経緯 3】

日付	患者の言動 行動	家庭の様子	客観的データ/アセスメント	対応
透析拒否 H27年5月19日(火) (前回透析から3日目)	Sさん電話にでない。	説得はするが強くは伝えることが出来ていない。Sさんより苦痛症状の訴えはない様子。	5/16 HD後のCTR 61.0% 呼吸状態悪化の可能性があり。	電話するも、電話に代わる事すら拒否。
H27年5月20日(水) (" 4日目)	家族の言葉に一切耳を傾けない。	家族の説得に攻撃的な反論を繰り返している。	家族だけのサポートは困難。	電話する。
H27年5月22日(金) (" 5日目)	対面を嫌がり、暴言を吐く。	家族が長男に相談をし、孫が説得に駆けつけてくれるが、追い返される。	長男にもサポートを相談する。	長男に電話し、現在の透析拒否状況を伝える。
H27年5月23日(土) (" 6日目)	「元気だから大丈夫。」と口調穏やかだが、スタッフの言葉に否定的。	家族に対して暴言を繰り返している。	専門施設への受診も必要と思われる。	電話する。
H27年5月25日(月) (" 8日目)	荷物をまとめて家を出て行こうとしている。説得の電話に出ない。	家族と接する事を強く拒み、自宅にすることが苦痛な様子。	家族の説得、クリニックからの電話対応も限界と思われる。	電話する。
H27年5月27日(水) (" 10日目)	家族に暴言 暴力を繰り返している。	困り果てた次男来院。暴言、妄想が出現し対応困難。不穏症状に対し、手が付けられない様子。	繰り返しの説得がSさん自身の不穏症状に影響している可能性も考えられる。	リスパダールOD(1)2錠/2× デパス(0.5)2錠/2× 内服開始となる。
H27年5月28日(木) (" 11日目)	家族に暴言、暴力を繰り返している。	暴言、妄想は続いており、対話困難。	家族、クリニックでのサポートだけでは、通院困難あり。第三者のサポートが必要。	電話する。 地域包括センター一介入依頼を勧める。

【透析再開までの経緯 4】

日付	患者の言動 行動	家庭の様子	客観的データ/アセスメント	対応
来院 H27年5月29日(金) (" 12日目)	「辛い しんどい」家族の説得に応じるほど体調不良。この辛さをなんとかしてほしい。	本人に透析をすれば楽になると説得を続ける。不安な様子。	苦痛症状が出現し始めた為、本人、家族の不安増大。 透析前BP191/92mmhg 嘔吐(+) 顔面蒼白(+) 全体的に浮腫(+) Spo2 90%呼吸苦自覚症状見られず。	夫の車にて来院。現在の苦痛に対し透析すれば徐々に楽になりますと説明し、落ち着くまで付き添う。
来院 H27年5月30日(土)	倦怠感強く透析中は最後までぐったりと睡眠中。	家族介助では、来院困難のため、次男が知り合いの介護ヘルパーに相談する。	透析前BP219/103mmhg 気分不良(+) 嘔気(+) 下肢浮腫(+) 倦怠感(+)	家族の介助では来院難しい為、次男が知り合いのヘルパーに相談し、ヘルパー介助にて来院する。明日も来院するよう本人、家族に説明す。
来院 H27年6月1日(月)	しんどさがあるがスタッフに対しいつもの調子で明るく振舞おうとしている。	透析に連れて行こうにも、家から連れ出せない。	家族介助では、通院困難の様子。 透析前 BP158/69mmhg 顔面蒼白(+) 口唇チアノーゼ(+) Spo2 91%全身倦怠感(+)	電話する。 体動困難な為、家族では介助出来ず当院より介護タクシーを手配する。 本人の透析拒否が、見られないこともあり、今後介護タクシーでの通院を勧めてみる。 家族に本人の意思を尊重した声かけを促す。
介護タクシーにて来院 H27年6月4日(木)	Sさん、車椅子にて来院。「迎えに来てくださった。」表情はやや穏やか。	本人に対し、否定的でなく、出来るだけ意思希望を受け入れるよう努力している。	家族、クリニック、地域包括センターのサポートにより、徐々に気分が落ち着いてきている。	本人の意思を尊重し、体調に配慮しながらの透析を行なっていく。

【Sさんに関わった支援者】



【考察】

- ① 何が問題であるかを見極める。
- ② 患者、家族の不安を一緒に考え、軽減できるよう力になる。
- ③ 常に患者、家族の考えに寄り添い、信頼関係を再構築する。
- ④ 介護保険(地域包括センター)などの情報提供を行い、家族・介護支援スタッフとの連携を図る。

【結語】

認知症患者の透析拒否を解決する事の
難しさを学んだ。しかし、そのことに向き合う
ことで、透析を再開出来たのは、大きな成果
だと考える。

**中国腎不全研究会
COI開示**

**筆頭発表者名
木曾早苗**

**演題発表に関連し、
開示すべきCOI関係にある企業などはありません。**

【臨床経過】

